

スキーノルディック複合サポート

ノルディック複合のメンタルサポートは、ソルトレークオリンピックのあと(2003年)から開始し、今年で3年目となります。3年間の活動を通してコーチ、選手との信頼関係ができてきたため、今年度のサポート活動はスムーズに行うことができました。2年目以降は心理的な課題とその対処についてカウンセリングに近い形で個別指導をしてきました。その結果、選手には様々な課題に対処しようとする能力が身につけてきたと思います。

そして、この3年間の集大成としてスイス・サンモリッツで行われていた直前合宿に帯同してきました。目的は今シーズンのワールドカップを振り返りながら、オリンピックに向けて気持ちを整理することにありました。具体的には「ワールドカップ転戦中の心の流れ」「試合中に起こった出来事」「オリンピックに向けた心構え」についてそれぞれの選手に語ってもらいました。その結果、オリンピックに出場することの意味をそれぞれに再確認してくれたと思います。今回のオリンピックでは選手は全力を尽くしました。このようなかわりを継続していくことが更なる飛躍につながっていくことを信じています。



湯田 淳
スポーツ科学研究部
スピードスケートサポート



TORINO

トリノオリンピックサポート報告

日本チームに帯同しサポートを行ったJISSスタッフの活動報告

日本代表選手団本部ドクター

前回のソルトレークオリンピックは、前年10月にJISSがオープンして間もなくということもあり、派遣前のメディカルチェックは行ったものの、ほとんど関与することなく終わったという感がありました。しかし、その直後から、JOC専任ドクター(以下D.E.)の提唱で、トリノオリンピックで、日本選手団が最高のパフォーマンスを発揮するための、JISSを核とした医学サポート体制構築を開始しました。

まず、競技団体の強化スタッフおよびメディカルスタッフと事前に調整を図り、継続性を持つ医学サポートチームを組織し、少数でより深いサポート活動を行うという方針を立てました。また、コンディショニングを重視して、競技種目ごとに、本部D.E.と連携して活動するトレーナー(以下T.E.)を帯同することにしました。そして冬季担当のJOC専任D.E.、専任T.E.とともに、JISSでのメディカルチェックとフィードバックを通して、選手の健康管理、コンディショニングチェックを行ってきました。

大会を通じては、幸い大きな外傷もなく済んだことがなによりでした。しかし腰痛が原因でパフォーマンスに影響が出たケースがいくつかあり、とくにオリンピック直前の練習で痛めたまま入村してきた選手への対応には苦慮しました。オリンピックにおけるメダルの獲得は荒川選手1人でしたが、ご存知のようにアルペン男子回転では、8位以内の入賞が2人となり、史上初めての快挙となったことをみても、選手達のがんばりは相当なものであったと思います。また、このような現場に立ち会うことができたことを、大変光栄に思います。

今回活躍した選手の多くは、冬季競技という特殊性を持ちながらも、コンディショニングや診療でJISSをよく利用していました。中には海外遠征の間に帰国した際は必ずクリニックに寄つてくれた選手もいました。このようなアットホームな環境作りがJISSのクリニックの持ち味であり、今後もみんな選手をサポートしていけたらよいと思っています。ただ、まだまだ多くの課題を抱えていることも否めません。それらを反省しつつ、バンクーバーに向けて、さらに競技現場との連携を強めながらサポートしていきたいと思えます。

カーリングサポート



私は2003年に青森で開催された冬季アジア大会のあとからカーリングのナショナルチームにアシレティックトレーナーとして帯同しています。選手の皆さんとのつきあいも長く、普段からコンディショニングに関する相談を受けたりもします。トリノオリンピックではスイスで行われた直前合宿からチームに合流しました。チームでの活動は主にマッサージやストレッチなどのコンディショニングが中心です。基本的には股関節まわりの疲労回復を行います。スイバーの選手に対しては肩甲骨まわりのケアも欠かせません。スタッフが少ないのでチームに帯同する際にはこれらのトレーナーとしての業務のほかにも雑的なことのお手伝いすることもあります。今回のオリンピックでは残念ながら7位に終わってしまいましたが、カーリングの世界では30、40歳の選手は当たり前なので、今回出場した選手には今後も競技を続けてさらに上位を目指してほしいです。

イタリアのコラルポにおける直前合宿から、オリンピック終了までレース分析を主体としたサポートを実施しました。スケートのレース分析はデジタルビデオカメラを用いて得られた映像から、各区分通過に要する時間を算出すること、これから区間の平均速度を算出することにより算出します。また、これに併せて滑走映像を加工し、DVDにして提供し、技術的な課題の解決にも活用してもらいました。

スピードスケートは選手の所属するチーム毎にコーチがいます。従って、分析データはそれぞれ別の選手にそれぞれフィードバックする必要があります。コラルポではこれはほとんど問題になりませんが、トリノに入ってから、選手村にいる選手・コーチにいかにかフィードバックするか、といった点で苦労しました。普段はチームをとりまとめるコーチにお願いしてそれぞれのコーチにデータをフィードバックしてもらっているのですが、オリンピック期間中はこのコーチの雑務が多く、できるだけ負担を減らすことを考えました。したがって、競技会場でDVテープにとった映像を加工せず、そのまま提供することもありました。今後は、オリンピックという特殊な環境下で如何に効率のよいサポート活動をするか、といった点についてより周到な準備が必要であると感じました。